

薬剤師になろうとしている諸君へ

皆さんは、薬科大学に入って薬学を修め、薬剤師になることを目指していることでしょうか、薬剤師になるのが人生の目的ではなく、薬剤師として人々の役に立つことが目的であることを忘れないでください。「人間は最初から人間なのではない。さまざまな教育を受けていくことで人間になっていく動物である」といわれるように、薬剤師も、免許を取れば一人前ということではありません。免許を取ってからのさまざまな学習と経験で、医療の担い手としての薬剤師になっていくのです。

免許取得後の学習の成果は、卒業時の資質に大きく依存します。皆さんは在学中にいわゆる基礎薬学の十分な知識と、医療の中で果たす薬剤師の責任についてのしっかりした心構えを身につけておくことが必要です。医学も薬学も、他の科学技術と共に急激に進歩しています。特に最近では、倫理的な問題を生じる恐れもあるほど、複雑かつ高度な内容に変わりつつあります。一方患者側には、疾病構造の変化とともにQOLを重視する意識の高まりもあり、患者主体の医療に向かつての変革の動きがはっきりとしてきました。こうして、医療も医薬も常に新しく、より幅広く変化するので、薬剤師は卒前・卒後の区別なく、継続的にそれらに的確に対応するための学習をしなければならぬ状況に置かれています。

『昨日卒業して、今日学ぶことを止めれば、あすは無学!』ともいわれます。免許を取ってからの期間が長ければ長いほど、学習を続けている薬剤師とそうでない人との差はどんどん大きくなっていきます。薬剤師にとっては、生涯学び続けることが、何よりも大切な世の中に対する義務と心得てください。

薬剤師が社会に出て行なう業務の中心は「調剤」と思っている人が多いのではないのでしょうか。もちろん「調剤」は大切であり、その中に薬歴管理、疑義照会、処方調剤、服薬相談、情報提供などを含む幅広い業務であることは、すでにご存知のことと思います。しかし、医療の現場ではすでに、医師からも患者からも、薬剤師に対してもっと踏み込んだ「薬物療法のマネジメント」が求められ期待されています。

病院でのTDMによる投薬設計は今でも薬剤師の腕の見せ所ですが、病院でも薬局でも、薬剤師の目による処方評価と患者観察により副作用や薬害の未然防止と早期発見に努めるほか、医薬品の使い方、選び方に関する医師への助言など、薬剤師の関与は重要です。さらに、保健指導やプライマリーケア、回復後の健康管理、生活習慣是正への介入、介護援助等、すべて薬剤師の専門職能を活かした薬物療法関連の、患者本位のマネジメントです。医療の現場で、未だ薬剤師がこのような立場で活動していないところがあったら、皆さんが新しい意欲をもって積極的に取り組んでいただきたいものです。

生涯学習は着実に積み重ねることが必要です。また、肩肘張らずに自然体で、自分の意志で始めなければ身に付きません。学習は難しいものではありません。ある程度実務経験を積んだら、研修の受講計画を自分で作ってください。機会はいろいろと用意されています。雑誌や新聞、研修提供機関のホームページ等を積極的に探してください。私共の認証機構の<http://cpc-j.org>もぜひ一度ご覧ください。研修会や学会への参加が望ましいですが、職域団体や地域での勉強会、適切な教材での自己研修も有意義です。テレビやインターネットを利用した研修もいくつも提供されています。そのほか患者とのやり取りから、処方せんから、専門家との会話から、薬剤師相互の情報交換からなど学ぶことは多く、生涯継続学習という見地から見れば、どんな学習でも無駄になるものではありません。

薬剤師は、人間最大の願望である生命・健康の鍵をにぎる医薬品の専門家として、常に医薬品情報の只中にあり、知識と技術を、誠実性と倫理性をもって人々のために活用できる立場にあります。この魅力ある職能を十分に生かせるようになってください。